

25年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 10月20日～ 11月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
入荷動向	スギ	0.0	25.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 25.0	25.0	50.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	50.0
消費動向	スギ	0.0	0.0	25.0
	ヒノキ	0.0	△ 50.0	50.0
	カラマツ	25.0	25.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 50.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 75.0	△ 25.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	50.0

国産原木入荷はスギは11月横ばいが12月の増加を経て1月には横ばいに、ヒノキは横ばいで推移、カラマツ及びトドマツは11月の減少から1月に向けて増加に。
消費はスギは11, 12月の横ばいから1月には増加に、ヒノキは11月の横ばいが12月の減少を経て1月には増加に、カラマツは11, 12月の増加から1月には横ばいに、トドマツは横ばいで推移。
在庫はスギ及びヒノキは11月の減少が12, 1月には横ばいに、カラマツは11, 12月の減少から1月は横ばいに、トドマツは11月の減少から12月の横ばいを経て1月には増加に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
スギ	50.0	50.0	50.0
ヒノキ	100.0	100.0	100.0
カラマツ	25.0	25.0	25.0
米マツ	33.3	33.3	33.3
北洋カラマツ	25.0	25.0	25.0
その他	100.0	100.0	100.0

原木購入価格は、スギ、ヒノキ、カラマツ、米マツ及び北洋カラマツとも強含みないし強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ、ヒノキ共入荷増量願うが10月も予定より少なく、11月見通しは10月より厳しく予定量の80%程度しか入荷の見込みが立っていない。スギ・ヒノキの消費はフル生産のためMAX。スギ、ヒノキ共入荷少なく在庫量は激減、特にヒノキは在庫なく厳しい状況が続いている。
・生産に合わせて入荷しているが、若干遅れ気味。生産に合わせて消費、入荷遅れ気味で在庫は若干減少。
・思うように原木の入荷が伸びない。・スギ、ヒノキは非住宅物件があり若干入荷増、カラマツは入荷増やすよう交渉しているが他社との競合から予定通り集まらない。カラマツは大手住宅会社向けが急増し11月から年内が生産ピークとなる。カラマツは原木集荷に努めているが予定を下回り在庫大幅減少の見込み。

(原木価格)

・スギ、ヒノキ共出材が増えてきていない、製材工場、合板工場が高値を出して材の確保に動いているが出材増えず、材の取り合いになっている、出材増えないと高値が続く、輸入材は安定している。
・スギ、カラマツは強含み、北洋カラマツは安定してきたが為替次第。・合板各社の引き合い増等各社資材購買に傾注しており全国的に値上げ方向。外材についても為替円安と産地価格上昇から強含み。

25年11月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	// (12mm)	20.0	0.0	0.0
	// (15mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	// (24mm)	20.0	0.0	0.0
	// (28mm)	△ 20.0	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	// (12mm)	40.0	20.0	20.0
	// (15mm)	0.0	0.0	0.0
	// (24mm)	40.0	20.0	20.0
	// (28mm)	20.0	20.0	20.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	// (12mm)	△ 40.0	△ 20.0	△ 25.0
	// (15mm)	0.0	0.0	0.0
	// (24mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	// (28mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0

生産は9mmは横ばいで推移、12mm及び24mmは11月の増加から12,1月は横ばい、15mm及び28mmは11月の減少から12,1月には横ばいに。

出荷は9mm及び15mmは横ばい、12mm, 24mm及び28mmは増加傾向に。

在庫は9mm、12mm、24mm及び28mmは減少傾向に、15mmは横ばいで推移。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
構造用(9mm)	20.0	40.0	20.0
// (12mm)	40.0	40.0	20.0
// (15mm)	20.0	40.0	20.0
// (24mm)	40.0	40.0	20.0
// (28mm)	40.0	40.0	20.0

合板出荷価格は全ての品目がプラスで推移。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・フル生産を行っても在庫が増えないため、各品目の生産バランスを変更できない。生産量での出荷で在庫は増える状況にない。
- ・生産は工場の都合によりバラツキあり、出荷は12mm, 24mmが増えた分出荷した(12mmは生産分以上)、28mmは生産出来ない分出荷できず。在庫は先月同様トラック取りづらく苦戦するが、12mmが減った分、全体の在庫が減った。
- ・在庫なく納期に追われた生産になっている、生産量イコール出荷量、在庫なしの状態がしばらく続きそう。
- ・針葉樹合板の生産少量で生産動向変化ない。若干在庫があり問い合わせから出荷は若干増と予想。少量ながら地産地消の合板の引き合いも増加傾向。需要堅調で全体的に在庫は減少と見込む。

(合板価格)

- ・国産材原木価格上昇、輸送料の上昇で合板の価格上昇。
- ・横ばいながらジリ高になって来ている。
- ・物不足は続いているが価格は落ち着いてきている。
- ・堅調な需要動向と資材価格上昇を受け各社とも値上げを打ち出しており強含みでの推移は当分続く。